第２章　研究の実際

研究（その１）

社会の形成者の一人として未来を構想する社会科学習の展開
－地理的分野　世界の諸地域「アジア州」の実践より－

（実践者）西田　剛志

１　研究テーマ設定の理由

将来の予測が困難な，複雑で変化が激しい今の時代に生きる生徒たちには，これとどのように向き合い関わっていくのかが問われている。そこを避けて通ることができないからこそ，生徒たちにはしっかりと社会や世界に向き合い，関わり合い，現在と未来に向けて，自らの人生を切り拓いていくことが求められている。具体的には，社会の変化に受け身ではなく主体的に向き合って関わり，様々な問題を見いだし解決に努めることが求められよう。また，自分を取り巻く様々な人々と関わり合いながら，対話を通して他者のもつ考えや情報を取り込んだり，逆に発信したりし合いながら，よりよい解決策を探ることも求められよう。

そこで生徒たちには，広い視野から社会的事象を捉えさせ，社会や世界の中での立ち位置を自覚させたい。また，自ら問いを立て，級友と「きょうどう」の精神を発揮し合わせながら主体的に問題解決を目指させたい。また，持続可能な社会づくりの観点からの考察を通して，思考したことを行動化に結びつけさせたい。これらの活動を通して，社会の形成者の一員として社会に参画し「よりよい社会をつくる」「よりよい社会に生きる」に向けて歩み続けるために必要な資質・能力を育成したいと考え，本研究テーマを設定した。

２　研究の内容及び方法

本年次は，次の三つの「研究の内容及び方法」により，研究を推進することとした。

（Ⅰ）　問題解決的な学習の充実

生徒に社会や世界の中での立ち位置を自覚させ，社会的事象に主体的に向き合わせるために，資料の提示や問い，学習展開の工夫をする。

（Ⅱ）「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実

広い視野から社会的事象を捉え，互いの社会的な見方や考え方を広げ深めさせるために，また，生徒の自尊感情を醸成させるために，生徒どうしの学びが生かされ合う学び合いの場を設ける。

（Ⅲ）　資質・能力が育つ評価の工夫

生徒の学びを「よりよい社会をつくる」「よりよい社会に生きる」よう構想し続ける「実践力」につなげるために，パフォーマンス課題を適切に設け，生徒自身に思考判断，表現力等の成長や変容を実感させる。

３　研究の実際

⑴　生徒の実態

本学級の生徒は４月以来，地理的分野の学習を通して，私たちの住む日本の，世界における「位置」を確認しながら学習を進めてきた。「世界の姿」の単元では，各自に単元の初めと終末で世界の略地図を描かせ，これを比較させた。約半数の生徒が日本とその周辺部，ユーラシア大陸の東側とオーストラリア大陸程度を，○で描くことができる程度だったが，単元の終末の世界の略地図への表現から，９割の生徒は形や位置に注意しながら描くことができており，生徒の世界の

広がりを見取ることができた。広範な世界の中に位置する日本という意識は，略地図への表現から見取ることができた。しかし，描いた内容を根拠を示しながら文章で表現できない生徒は約５割いることから，根拠となる知識や技能の習得が不十分であったと考えられる。

続く「世界各地の人々の生活と環境」では，直接体験することができない世界各地の人々の生活を，直接体験することができる日本での衣・食・住などを基準に比較させながら，その特徴を大まかに捉えさせることで，単なる空間的な「位置」ではなく，生活の様子を加味した世界の中の日本やそこに住む私たちの「位置」を知ることができた。一方，家屋の形状の特徴がみられる理由を，具体的な資料を用いたり，他の資料と関連付けたりと根拠を明確にして説明できるものは約１割程度に過ぎなかった。

⑵　論理的に思考し表現する力を高めるための工夫

社会科では「事象や問題の背景を熟考し，自分の意見や考えをもち，その根拠を明確にして表現する力」と捉えている。上記「２研究の内容及び方法」を工夫することにより実践する。

具体的には，上記の力を「きょうどう」の精神を発揮しながら学び合う問題解決的な学習の過程で育成する。その際，「熟考」させるために，問題解決的な学習の過程で小集団で役割分担して社会的事象や問題の背景を多面的・多角的に捉えさせるよう学習の展開を工夫する。また，学習を通して見えてきた新たな学習問題に対して，現在の社会や世界の「持続可能性」や生徒の将来への提案の「実現可能性」などから考察させることにより空間的・時間的な視野をもって考察するよう問いやパフォーマンス課題を工夫する。

また，「自分の意見や考え」をもたせるために「きょうどう」する学習者であること意識させて自尊感情の醸成につながるよう小集団内で役割分担を明確にする。「根拠を明確にして表現」させるために，論点を整理して表現させたりする。そしてこれらの成果を表現させる際，主体的な私の「立ち位置」の自覚のもと，「よりよい社会」づくりを志向して考えさせることにも留意する。

⑶　授業の実際

ア　指導の実際

⑺ 概　要

単　元　　世界の諸地域「アジア州」（全７時間）

単元目標

広範囲に広がり，巨大な人口を抱えるアジア州が近年，急速に経済成長を遂げてきた背景を理解し，今後も成長を続けていくためには，アジア州をはじめ，世界の国々が様々な問題の解決に向けて協力し合うことや将来のことも考えて行動することが必要であることに気付く。

本質的な問い

アジア州はなぜ急速に経済成長することができたのだろうか。また，アジア州がこれからも持続的に成長していくためには，アジア州の国々やそこに住む私たちは，様々な問題の解決に向けて，どうすればよいのだろうか。

永続的な理解

アジア州は，古代文明や様々な宗教の発祥の地であるように，長い歴史の中で生活や文化，産業がはぐくまれ，そこには共通性があるとともに地域ごとの多様性もある。近年は，欧米諸国による植民地支配や地域紛争，政情の不安などを乗り越え，日本や諸外国と関わったり地域の特色を生かしたりしながら急速に経済成長を遂げてきた。しかしこの変化が資源や環境，社会のひずみ，国際関係の緊張など，様々な問題を引き起こしている。よりよい社会や世界を築くことを目指し，持続可能な社会や世界の成長のためには，各国が様々な問題の解決に向けて協力し合うことが必要であるとともに，世界の中の日本に住む私たちも，どのように行動すればよいのかよいのかを考える必要がある。

評価目標と評価方法

評 価 目 標	評 価 方 法
① 身近なアジア州の地域的な特色について，興味・関心をもって意欲的に追究しようとする。（関心・意欲・態度）	◎パフォーマンス課題 ・あなたはアジア州の経済成長の様子を調査してきました。経済成長とともに発生した問題を解決しながら，これからもアジア州が成長していくためにはどうすればよいか，Ｂ５判１枚のレポートにまとめなさい。（①②③） ○ワークシート（①②③） ○ペーパーテスト（③④）
② アジア州の急速な成長と，それとともに見られるようになった問題に対して，どのように対応していけばよいのかを，その持続可能性を踏まえながら多面的・多角的に考察し，その結果を適切に表現している。（思考・判断・表現）	
③ 学習問題やパフォーマンス課題の解決に向けて，収集した資料や協働学習者の学習成果，意見を適切に選択して，読み取ったり図表に整理したりしている。（資料活用）	
④ アジア州をいくつかの地域に分けて人口や産業の特色を整理し，地域ごと違いを踏まえてアジア州の地域的特色について理解し，その知識を身に付けている。（知識・理解）	

指導計画（全７時間）

次	学 習 内 容	◇ 評 価 規 準	時間
1	アジア州を大まかに捉える ○アジア州の自然環境と人口 ○地域によって異なるアジア州の生活や文化	◇既習事項や身近な事例を通して，アジア州の地域的特色について追究しようと意欲が高まっている。（関心・意欲） ◇ユーラシア大陸の広範囲に広がり，巨大な人口を抱えるアジア州の多様性を，主題図や資料を用いて調べ，まとめている。（資料活用）	2
2	アジア州の地域的特色を，経済成長の視点から捉えよう ○アジア州の経済成長の背景 ○持続可能性から見たアジア州の経済	◇アジア州の各地域の急速な経済成長の背景について理解している。（知識・理解） ◇アジア州の経済成長の背景やそれとともに見られるようになった問題の解決策を自分なりに判断して考察し，表現している。（思考・判断・表現） ◇問題解決に必要な情報を収集し，ワークシートに整理している。（資料活用）	3
3	パフォーマンス課題 ○持続可能なアジア州の成長を考える ○自分の成長を振り返る	◇パフォーマンス課題に意欲的に取り組み，収集した資料や情報を根拠に，多面的・多角的に考察している。（関心・意欲）（思考・判断・表現）（資料活用）	2

(ｲ) 本単元における指導と評価の工夫

先ず本単元と生徒の実態について述べる。本生徒にアジア州に関する事前の調査で，「アジア州と日本との関わり」について質問したところ，身近な生活を支える多くの中国製品を上げる生徒が約４割，その他，工業化に伴う環境汚染の問題，領土問題を上げるなどの関心が高い。よって生徒は，主体的に問題を見いだし，解決に向けて学習に取り組めると考えた。また生徒にとって最も身近な州であることから，主体的な私の「立ち位置」の自覚のもと，アジア州の中の日本に住む私，アジア州で見られる身近な社会的事象と関わっている私，その私はどう向き合っていけばよいのか，何ができるのかといった実践力につなげることができると考えた。また，アジア州が長い歴史をもつとともに広範囲に及び多面性があることから，多面的・多角的な視点から捉えさせることに適していると考えた。

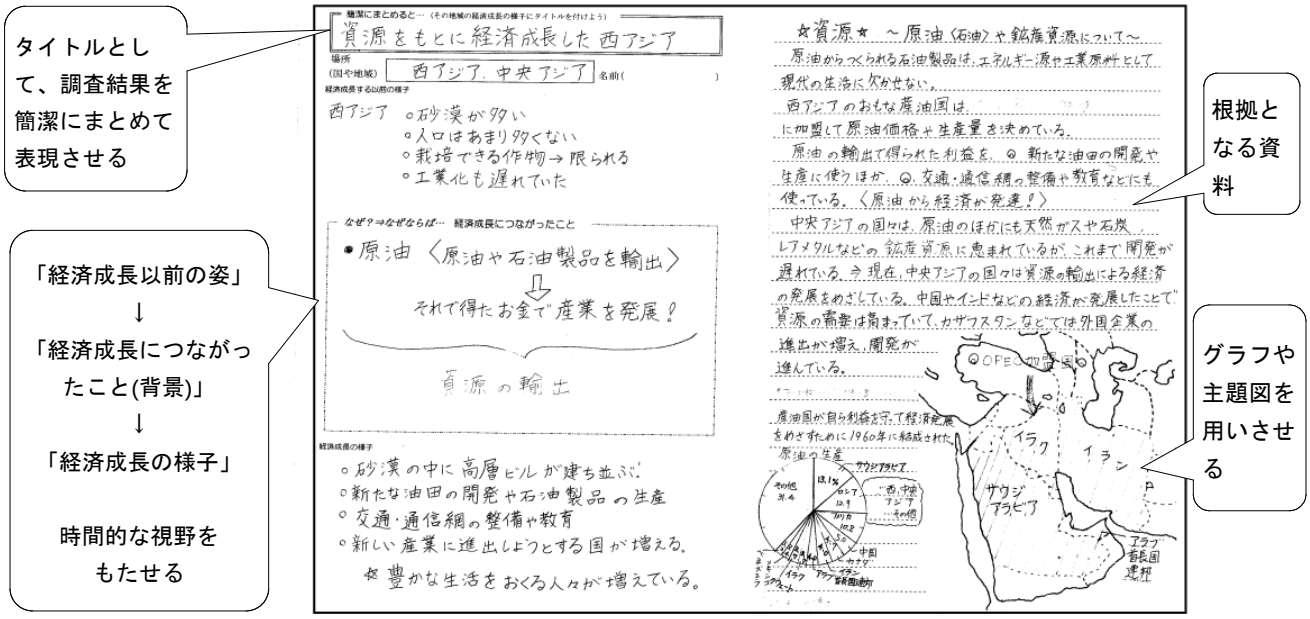
これに対して実践した指導の工夫と実際を，前述「２　研究の内容及び方法」に即して述べる。

（Ｉ） 問題解決的な学習の充実

アジア州の地域的特色を大観させた後に設ける主題を，「アジア州は，なぜ急速に経済成長することができたのだろうか」としてその背景を問題解決的な学習により追究させ，アジア州の姿

を的確に把握して地域的特色を理解させた。この問い対して主体的に学習させるために，導入ではアジア州の都市の景観写真や，工業製品出荷額の変化を示す統計資料，身の回りのアジア州の工業製品などの実物資料を提示し，アジア州の経済成長を強く印象づけられるよう工夫した。

また，問いを立てたり，追究成果をまとめさせるワークシートを作成したりする際に，論理的に思考し表現させることをねらい，次の三つに留意した。一つ目はワークシートを「経済成長以前の姿」「経済成長につながったこと(背景)」「経済成長の様子」を順に並べ，思考を整理させたことである。二つ目は，調査結果を簡潔にまとめさせたタイトルを付けさせたことである（**資料１**）。三つ目は新たな学習問題として「アジア州を，将来にわたって持続的に経済成長させる」という視点から，今，あるいは今後取り組まなければならない課題について考えさせ，更に将来にわたる時間的な視点を，またその課題解決策を考えさせたことである。因果関係を明確にして整理させたり，重要な事象を見いださせたりしてそれを表現させ，論理的な思考を促した。また，アジア州の経済成長を負の視点から見させたり，将来像を思い描いたりさせることで，多面的・多角的に，また時間的な視野をもって社会的事象を捉えさせるよう促した。



資料１　生徒の思考を整理して表現させるワークシート

（Ⅱ）「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実

アジア州の地域的特色を大観させたことを踏まえ，「多様性のあるアジア州の経済成長の様子にも多様性がある」との仮定から，問題解決的な学習の過程で小集団内でアジア州の各地域を分担して調査をさせた。ここでは協働学習者であることを前提にして，その調査結果を持ち寄らせることでアジア州全域の経済成長の姿が捉えられるものとした。即ち，自分の追究成果は自分のみならず他者の追究には不可欠であること，また，必ず生かされるものであることを前提にしている。その追究成果を情報共有の場で説明させたり，生徒同士で意見を交換させたり，それを根拠に自分の考えを表現させたりした。これらの追求過程や対話や議論を通じて多面的・多角的に，また空間的な視野をもって社会的事象を捉えさせるよう促し，多様な考えを理解したり自分の考えを広げたりできるような場とした。

資料２　各地域の専門家になって，
「きょうどう」の精神を発揮しあう姿

（Ⅲ） 資質・能力が育つ評価の工夫

評価に際しては，永続的な理解にたどりつかせ，「よりよい社会をつくる」ことを志向した「実践力」につなげるパフォーマンス課題に取り組ませた。そしてこれを評価するものとした。また，この課題に対する表記を見直させることで表現の力等の成長や変容を実感させた。なお詳細は，次章イ④で述べるものとする。

イ　生徒の学びの実際

①　主　題　　アジア州の地域的な特色を，経済成長の視点から捉えよう

（５／７時間，指導計画２次のうちの本時その３）

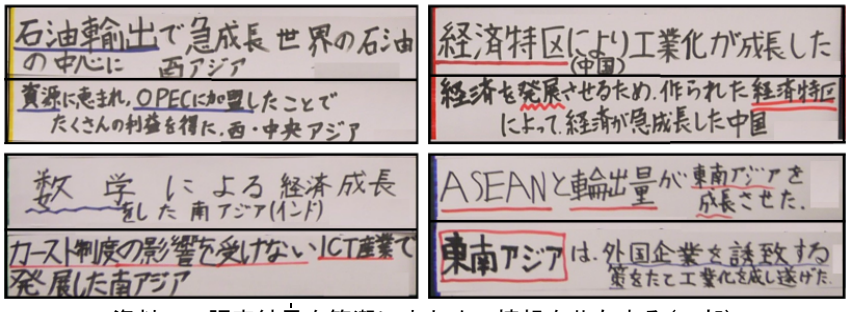
②　ねらい

○経済成長から見たアジア州を，地域の特色や抱える問題を踏まえて理解する。

○世界で起きている社会的事象を自分との関連から考察する。

③　展　開

学習活動(形態)	○教師の働きかけ　・予想される生徒の反応	○指導の工夫　◇評価(方法)
1　多様性のあるアジア州の姿を振り返る。（一斉）	○アジア州は，どのような地域か。 ・ユーラシア大陸の広範囲に広がる。 ・巨大な人口を多くの食料生産が支える。 ・様々な生活や文化，宗教が信仰されているなど多様性がある。	○見通しをもって問題解決的な学習に臨んできたことを振り返らせるために，導入の際に用いた写真や資料を提示した。
学習問題①	アジア州は，なぜ急速に経済成長することができたのだろうか。	
2　アジア州の経済成長の背景に関する調査結果を共有する。（一斉）	○東アジア，東南アジア，南アジア，西アジア・中央アジア，それぞれの地域の経済成長の背景を説明しよう。	○空間的にアジア州を捉えさせるために，多様なアジア州を地域ごとに分担させて調査させ持ち寄らせた。（資料３） ○地理的なものの見方や考え方を身に付けさせるために，主題図などの資料を用いて表現させた。 ◇経済成長から見たアジア州の特色を調査結果をもとに根拠を明確にして説明している。（ワークシート）
学習問題②	「アジア州を，将来にわたって持続的に経済成長させる」という視点から，今，あるいは今後 取り組まなければならない課題は何だろう。	
3　アジア州の将来について，経済成長の持続可能性の視点から話し合う。（小集団） ↓ （全体）	○見いだした課題は，どのようにすれば解決できるのだろう。 ・中国は，環境問題に対して周辺国にも影響が出ないように規制する。 ・石油輸出国は，今使ってしまわないで，将来も輸出できるように量を調整する。鉱産資源には限りがあるから。	**○対話や議論を通じて多様な考えを理解したり自分の考えを広げたりできるようにするために小集団内で分担して調査した結果を持ち寄らせ，自分の考え等を根拠を明確にして説明させた。【協同】**
4　持続可能な社会や世界を築くために，あるべき姿を構想する。（小集団）	○持続可能な社会や世界を築くために，世界の国々や私たちは，どのようすればよいのだろう。	**○主体的な私の「立ち位置」の自覚のもと志向させるために，持続可能性の視点から自分や級友の意見を検証させた。【協働】**

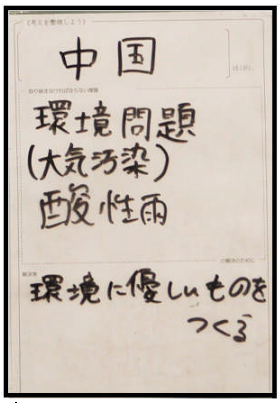


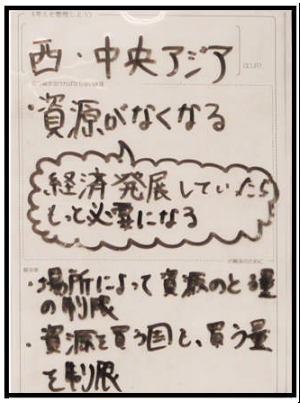
資料３　調査結果を簡潔にまとめ，情報を共有する（一部）

課題を抱える国や地域 →

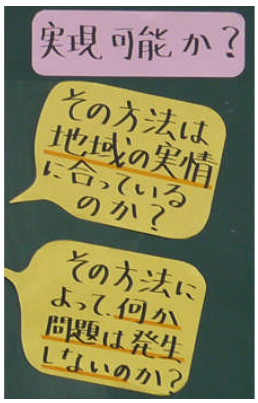
課題 →

解決策 →





資料４　追求の過程で見いだした課題と，その解決策



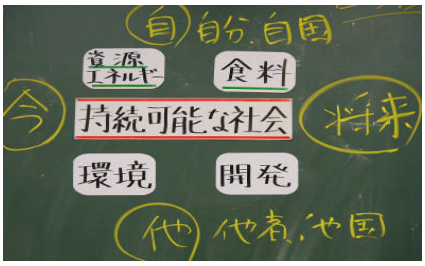
資料５　持続可能性の検証のポイント

↓

（全体）

5　持続可能な社会や世界を形成するためのを考え方をまとめる。　（一斉）

○みんなの意見を整理して持続可能な社会や世界をつくっていくための考え方をまとめよう。



資料６　持続可能な社会を形成するための考え方

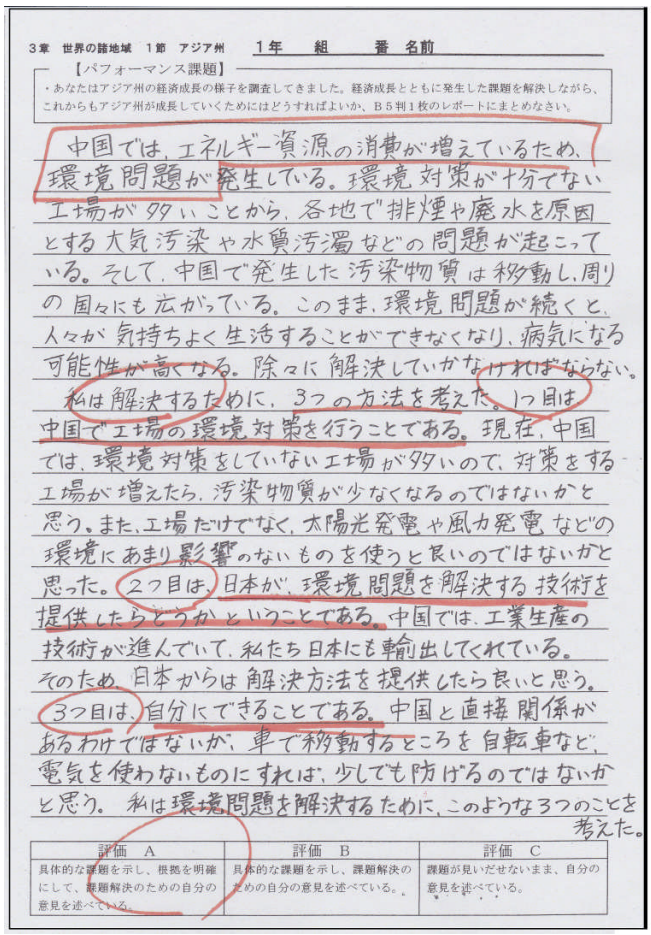
○「よりよい社会をつくる」ことを目指し，主体的に実践する社会の形成の一員となる事を促すために，生徒の発言の中から持続可能な社会の考え方を導き出す。（資料６）　【協働】

④　思考や表現の実際

ここでは，本単元の終末（６／７時間，指導計画３次のうちのその１）で取り組ませた，パフォーマンス課題への生徒の思考や表現の実際を述べる。本単元ではその課題を，「あなたはアジア州の経済成長の様子を調査してきました。経済成長とともに発生した問題を解決しながら，これからもアジア州が成長していくためにはどうすればよいか，Ｂ５判１枚のレポートにまとめなさい。」とした。この問いはアジア州の抱える環境や資源など，生徒に身近で興味深い内容も多く，実感をもって追求することができる上，これらに着目させることで世界で起こっている問題に向き合う必要性を強く感じることができると考えた。よってこれは生徒に，社会の形成者の一員として主体的な私の「立ち位置」の自覚のもと，解決に向けて取り組ませ「よりよい社会」づくりを志向させる課題であると考える。とりわけ「実践力」ということについては，生徒に根拠を明確にして表現させることが，社会の形成者の一員として主体的な私の「立ち位置」をしっかりと自覚させた上で育成されるものと考えている。よって評価基準も以下のものとし(**資料７**)，生徒には「自分の意見」に「根拠を明確に」させることを求めた。

評価する観点	評価　A	評価　B	評価　C
①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③資料活用	①②具体的な課題を示し，③根拠を明確にして，②課題解決のための自分の意見を述べている。	具体的な課題を示し，課題解決のための自分の意見を述べている。	具体的な課題が見いだせないまま，自分の意見を述べている。

資料７　パフォーマンス課題に対する評価規準と観点



3章　世界の諸地域　1節　アジア州　　1年　組　番　名前

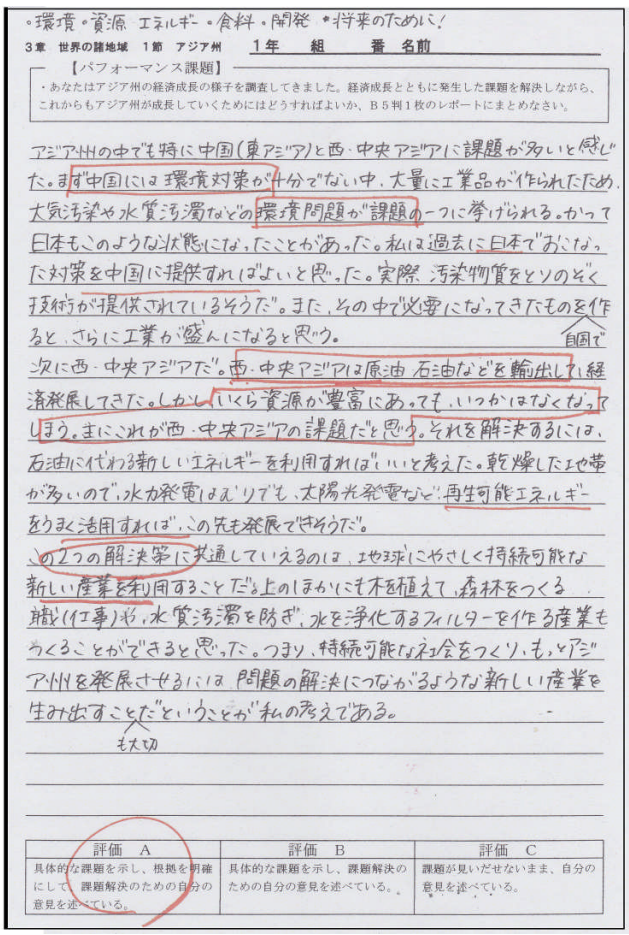
【パフォーマンス課題】

・あなたはアジア州の経済成長の様子を調査してきました。経済成長とともに発生した課題を解決しながら、これからもアジア州が成長していくためにはどうすればよいか、B５判１枚のレポートにまとめなさい。

中国では，エネルギー資源の消費が増えているため，環境問題が発生している。環境対策が十分でない工場が多いことから，各地で排煙や廃水を原因とする大気汚染や水質汚濁などの問題が起こっている。そして，中国で発生した汚染物質は移動し，周りの国々にも広がっている。このまま，環境問題が続くと，人々が気持ちよく生活することができなくなり，病気になる可能性が高くなる。除々に解決していかなければならない。

私は解決するために，３つの方法を考えた。１つ目は中国で工場の環境対策を行うことである。現在，中国では，環境対策をしていない工場が多いので，対策をする工場が増えたら，汚染物質が少なくなるのではないかと思う。また，工場だけでなく，太陽光発電や風力発電などの環境にあまり影響のないものを使うと良いのではないかと思った。２つ目は，日本が，環境問題を解決する技術を提供したらどうかということである。中国では，工業生産の技術が進んでいて，私たち日本にも輸出してくれている。そのため，日本からは解決方法を提供したら良いと思う。３つ目は，自分にできることである。中国と直接関係があるわけではないが，車で移動するところを自転車など，電気を使わないものにすれば，少しでも防げるのではないかと思う。私は環境問題を解決するために，このような３つのことを考えた。

評価　A	評価　B	評価　C
具体的な課題を示し、根拠を明確にして、課題解決のための自分の意見を述べている。	具体的な課題を示し、課題解決のための自分の意見を述べている。	課題が見いだせないまま、自分の意見を述べている。



・環境・資源　エネルギー・食料・開発　＊将来のために！

3章　世界の諸地域　1節　アジア州　　1年　組　番　名前

【パフォーマンス課題】

・あなたはアジア州の経済成長の様子を調査してきました。経済成長とともに発生した課題を解決しながら、これからもアジア州が成長していくためにはどうすればよいか、B５判１枚のレポートにまとめなさい。

アジア州の中でも特に中国（東アジア）と西・中央アジアに課題が多いと感じた。まず中国には環境対策が十分でない中，大量に工業品が作られたため，大気汚染や水質汚濁などの環境問題が課題の一つに挙げられる。かつて日本もこのような状態になったことがあった。私は過去に日本でおこなった対策を中国に提供すればよいと思った。実際，汚染物質をとりのぞく技術が提供されているそうだ。また，その中で必要になってきたものを作ると，さらに工業が盛んになると思う。

次に西・中央アジアだ。西・中央アジアは原油・石油などを輸出（自国で）して経済発展してきた。しかし，いくら資源が豊富にあっても，いつかはなくなってしまう。まさにこれが西・中央アジアの課題だと思う。それを解決するには，石油に代わる新しいエネルギーを利用すれば，いいと考えた。乾燥した土地帯が多いので，水力発電はむずかしいが，太陽光発電など，再生可能エネルギーをうまく活用すれば，この先も発展できそうだ。

この２つの解決策に共通していえるのは，地球にやさしく持続可能な新しい産業を利用することだ。上のほかにも木を植えて，森林をつくる職（仕事）や，水質汚濁を防ぎ，水を浄化するフィルターを作る産業もつくることができると思った。つまり，持続可能な社会をつくり，もっとアジア州を発展させるには，問題の解決につながるような新しい産業を生み出すことも大切だということが私の考えである。

評価　A	評価　B	評価　C
具体的な課題を示し、根拠を明確にして、課題解決のための自分の意見を述べている。	具体的な課題を示し、課題解決のための自分の意見を述べている。	課題が見いだせないまま、自分の意見を述べている。

資料８　実際の生徒のパフォーマンス課題に対する思考と表現

資料８の生徒は，二人とも評価Ａである。それぞれ先ず各地域の課題を端的に述べ，問題の原因あるいは解決策の根拠を具体的な事象を用いて説明している。特に左の生徒は，ナンバリングすることで，論点を整理して表現している。右の生徒は授業で獲得した「持続可能な社会を形成するための考え方」生かして表現している。なお，このパフォーマンス課題における評価結果は，評価Ａが５９．７％，評価Ｂが４０．３％，評Ｃが０％であった。この評価の後，不十分であった生徒には朱書して論理的な思考を促した。

ウ　考　察

（Ⅰ）　問題解決的な学習の充実

○アジア州各地域の調査結果を整理した資料や調査結果を簡潔にまとめさせたタイトルから，約７割の生徒は経済成長につながった背景を主題図やグラフを用いて地理的事象を整理したり，最も重要な事象を選択したりして適切に表現することができていた。これは，前述のワークシート作成の工夫が，生徒に調査すべき内容を理解させ，見通しをもって追究させることに効果的であったと考える。

○学習問題①に対して経済成長につながった背景を多面的・多角的に捉えていた。また，パフォーマンス課題に対してアジア州の現状を踏まえ，将来の持続可能な成長への課題解決のため意見を約６割の生徒が時間的な視点をもって記述できていた。これは，学習の形態やパフォーマンス課題の設定が効果的であったと考える。

○事後のアンケートで生徒が一番印象に残っている活動として，「パフォーマンス課題に対して，自分が調べたものなどを使い，アジア州を持続可能な社会にするために自分で考えたこと」「ア

ジア州の経済成長について，自分で調べたこと」などを上げる生徒が多かった。これは，自ら学ぶ学習展開が，主体的な学びにつながっているものと考える。

（Ⅱ）「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの充実

○明確な役割分担のもと追究し，自分の追究成果やそこから得られた考えを積極的に級友に伝えようとする姿が随所に見られたことから，自分のみならず他者の学びのために意欲的に追求し，自ら学び合おうとする姿勢が芽生えたと考えられる。

○事後のアンケートで生徒が一番印象に残っている活動を上げる理由として，「同じ地域でも，人によって見え方が違うことが分かったから」「自分が気付けなかったことを，他の人が資料を見つけて教えてくれた」「情報を共有する場面で，みんなで調べたことを基に話し合えたから」などを上げていた。このことから，生徒の見方や考え方を広げるのに効果があるとともに，お互いの学びが生かされることにやりがいを感じられる活動になっていることが分かる。

○事後のアンケートで「小集団学習で友達の意見や考えは，自分の役に立っている」と答えた生徒は６９％いるのに対し，「自分の意見や考えは，友達の役に立っている」と答えた生徒は３６％にとどまっていた。また，発表の声が小さかったり，級友の調査結果を生かしきるまでにはなっていなかったことから，お互いの学びが生かされ合う姿の「可視化」や課題設定が不適切であり，自尊感情の醸成には不十分であったと考えられる。

（Ⅲ） 資質・能力が育つ評価の工夫

○パフォーマンス課題に対する記述に，約６割の生徒が課題に対する解決策をナンバリングして，根拠を明確にして表現できていることから，日頃の問答ゲームや各教科での取組の成果が表れていたものと考える。

○事後のアンケートで，パフォーマンス課題に対しての感想として約２割の生徒は「自分の知らない地域で，様々な特色があり，自分の身近な生活にも影響が出ている」「その地域だけでの問題ではない」と，自分のこととして捉えている。しかし，その記述には，「私」としての「実践化」につながる記述が約２割にとどまっていることから，主体的な私としての「自覚」をさせた問いやパフォーマンス課題であったとは言い切れない。

○パフォーマンス課題の評価の際に，ＡからＣのどれに該当するのか判断が難しかったものが約３割あったことから，評価の観点と基準がややあいまいな部分があったものと考えられる。

４　成果と課題

学習問題や問題解決的な学習での追究過程で思考を整理させたことは，「熟考」することに効果的であったと考える。一方，主体的な私として「立ち位置」の自覚を促し，「自分の意見や考え」をしっかりともたせるような視点の与え方や考察のさせ方，あるいは明瞭なパフォーマンス課題や評価基準の設定の見直しが必要である。また，「きょうどう」の精神を発揮する学び合いの場面を工夫した自尊感情の醸成の仕方には学びの姿を「可視化」するなどの改善の余地が多々ある。これらを今後の課題としたい。